

暮らしのひとコマ

最近入所された男性入居者様に、頻回にご家族や知人のかたからお便り（葉書）が届く。電話やメールでの連絡手段が盛んな現在に、この男性入居者様の今までくらししてきた生活が趣のあるものだったのだろうなあと感じています。

先日届いたご家族（奥様）からのはがきはわかばに入居されるまでお住まいになられていたご自宅付近の写真を葉書にされている一枚で、葉書の内容もだが、その写真にも愛情がたっぷりと込められていて感動させられました。

お部屋まで葉書を配達させていただくと目を細め大変喜ばれる姿に手紙って素敵だなと、文通友達がいた小学校時代を思い出してしまいました。（ひ）



和歌山生協病院の看護師さんの「里親制度」で、今回（6/1）来てくれたのは入職3年目で4階病棟で働くNさんです。

2階ユニットの入居者様の血圧・体温測定をしたり、胃ろうの方の注入食の場面を見学したり、入居者様の生協病院受診に付き添ったり、浣腸の手技を補助しながら見学したりなどしてくれました。写真は当日生協病院から退院された入居者様のバイタルチェックをしながらお話をしているところです。

今回の里帰りでわかばが病棟とは違う「生活の場」であると感じたそうです。また看護師と介護士の情報共有がしっかりしている印象をもったそうです。最後に「王道ですが、患者に寄り添える看護師になりたいです」



今、デイサービスのお庭では百合の花が満開です。この百合は送迎スタッフの岡崎さんが球根から世話をしてくれています。デイの利用者さんも百合の花を囲んでにっこり。（百合に負けてません！）桜の木も枝ぶりが大きくなって来年のお花見が楽しみです。（い）

デイ*便り 百合が満開



立てば芍薬、
座れば牡丹、
歩く姿は
百合の花

編集後記
コロナウィルスの扱いも5類となりました。わかばの前の生協病院でも時間の限定はありますが、久しぶりに病棟まで面会が可能になりました。この3年、わかばの職員といえど、全く病棟に上がることはできなかったので面会できたことに新鮮さを感じました。

この間、入院になった方もさぞかしさみしい思いをされた方が多かったのではないかと思います。

わかばでも面会がガラス越しではなく対面に緩和されました。まだ部屋での面会や外出といったことは出来ませんが早く、これまでの日常が戻ってほしいとわかばで働くものとしても感じます。そうなったときはどんだんわかばに来てください。（でも面会や外出の許可については未定です）

